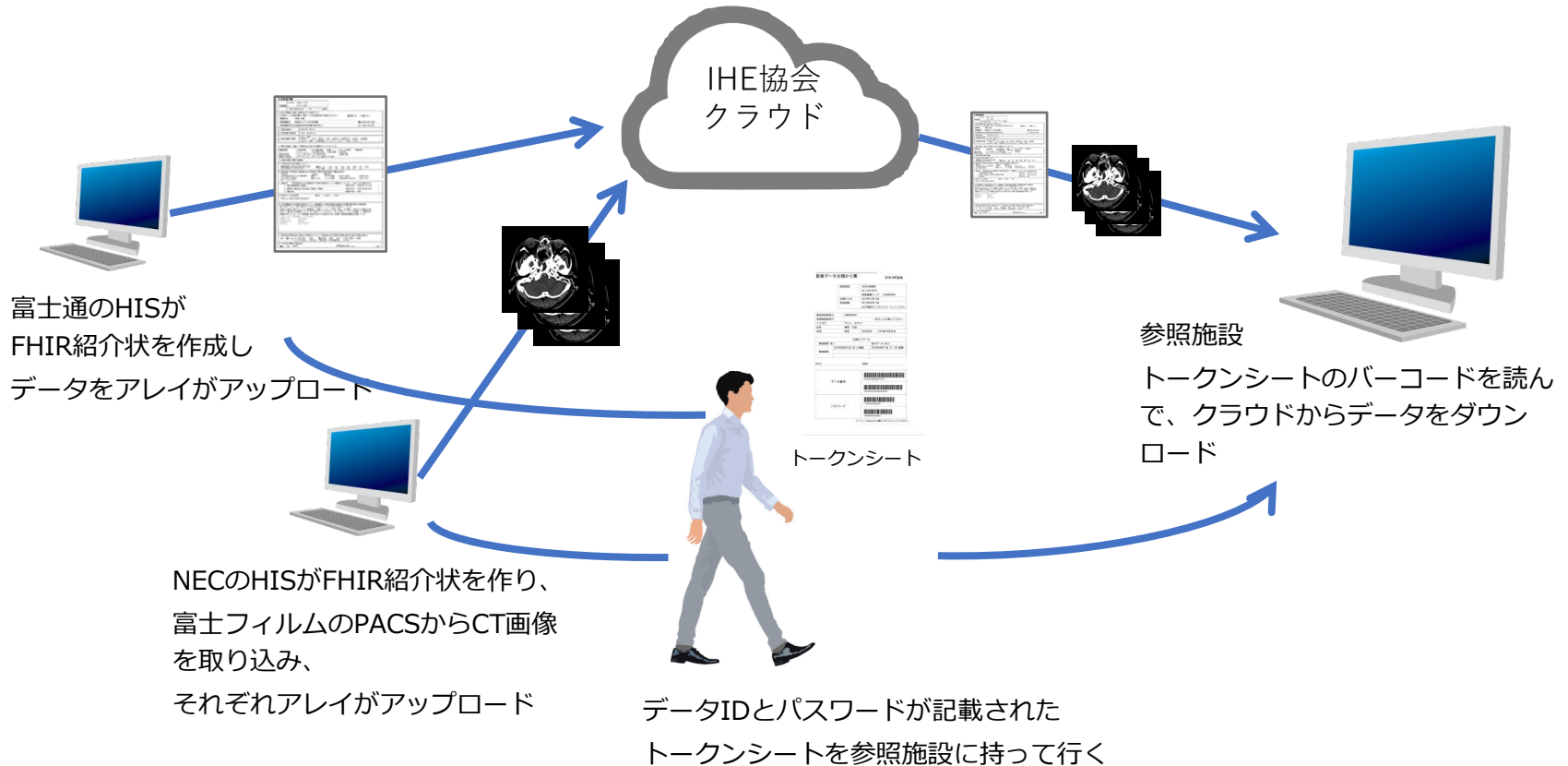


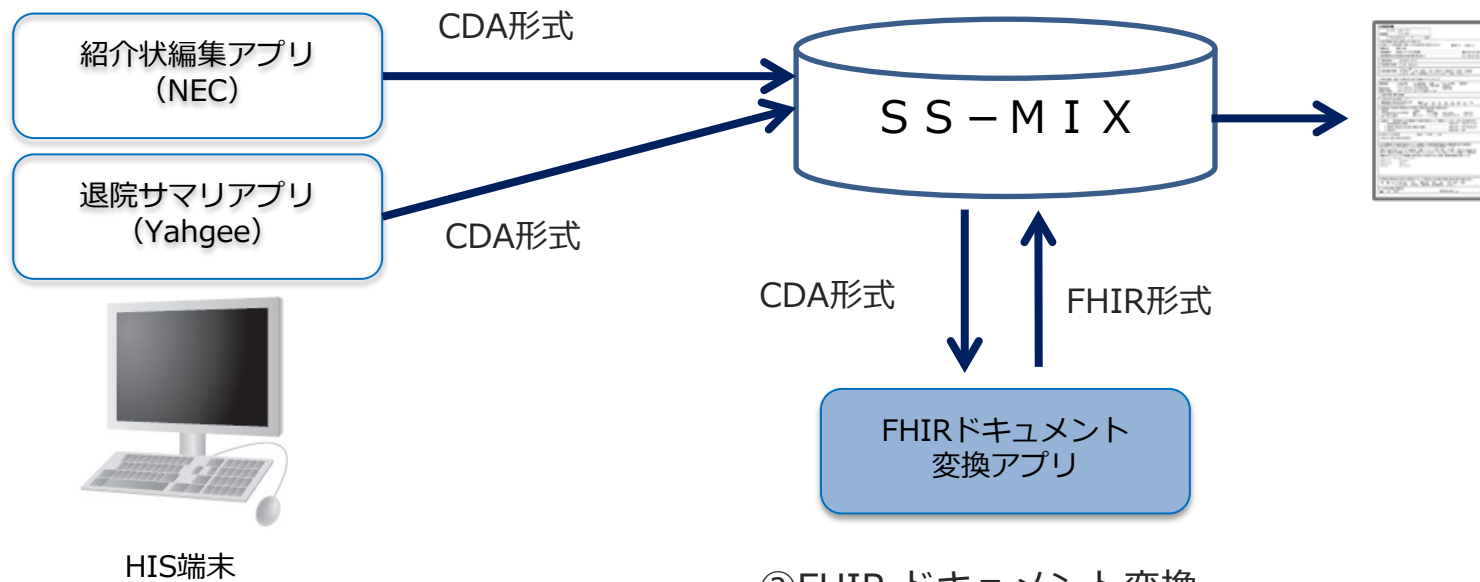
ホスピタルショーにおける HL7 FHIR紹介状連携デモ

日本HL7協会会長
浜松医科大学医療情報部
木村通男





① 診療情報提供書、退院サマリのHL7CDAをSS-MIXに出力



② FHIR ドキュメント変換 JSON化してSS-MIXに再格納

「医療DX令和ビジョン2030」厚生労働省推進チーム（案）

「医療DX令和ビジョン2030」の実現に向けて、データヘルス改革推進本部に厚生労働大臣をチーム長とする「**医療DX令和ビジョン2030厚生労働省推進チーム**」を設置する。

医療DX令和ビジョン2030厚生労働省推進チーム

【チーム長】
厚生労働大臣

【チーム長代理】
事務次官・医務技監

【チーム次長】

医薬産業振
興・医療情報
審議官

健康・生活衛
生・災害対策
担当審議官

データヘルス
改革
担当審議官

〔幹事会とりまとめ
も担う〕

【幹事】

医政局・医薬局・保険局・健康局の関係課室長

【タスクフォース】

「電子カルテ・医療
情報基盤」TF

「診療報酬改定DX」
TF

定期的な報告

医療DX推進本部

厚生労働大臣が構成員
(本部長：総理)

医療DX推進本部
幹事会

厚生労働副大臣が構成員
(議長：木原副長官)

【アドバイザー】
葛西参与

- ✓ デジタル庁・経産省・総務省とも連携
- ✓ 必要に応じて、関係局長・審議官も参加

- ✓ 必要に応じて、他部局の関係課室長も参加

- ✓ 各TFには、必要に応じて、支払基金・国保中央会も参画
- ✓ 必要に応じて、TFを適宜追加

電子カルテ情報及び交換方式の標準化

(基本的な考え方)

➤ 医療機関同士などでのスムーズなデータ交換や共有を推進するため、HL7 FHIRを交換規格とし、交換する標準的なデータの項目及び電子的な仕様を定めた上で、それらの仕様を国として標準規格化する。

(具体的な取組)

➤ 厚生労働省においては、令和4年3月に、3文書6情報(※)を厚生省標準規格として採択。今後、医療現場での有用性を考慮しつつ、標準規格化の範囲の拡張を推進。令和4年度は厚生労働科学研究費補助金の事業において透析情報及び一部の感染症発生届の標準規格化に取り組む。

(※) 3文書：診療情報提供書、退院時サマリー、健診結果報告書

6情報：傷病名、アレルギー情報、感染症情報、薬剤禁忌情報、検査情報(救急時に有用な検査、生活習慣病関連の検査)、処方情報

標準型電子カルテの検討

➤ 併せて、今後、小規模の医療機関向けに、当該標準規格に準拠したクラウドベースの電子カルテ(標準型電子カルテ)の開発を検討。令和4年度は関係者へのヒアリングを実施しつつ、令和五年度の調査研究事業を実施する予定。

電子カルテ・医療情報システム 部品集 CD-ROM (Hybrid版)

Directory of Electronic Health Record System and Components

編集 木村 通男 浜松医科大学医学部附属病院医療情報部



2023

厚生労働省標準規格準拠が一目でわかる！
SS-MIX対応製品のストレージ利用範囲もわかる！

